

学校教育目標	「よりよい自分 よりよい仲間」 (知)自分の思いをもち、自分の力で積極的に学び続ける子を育てます。 (徳)規範意識をもち、自分も相手も大切に、自信と思いやりのあふれる子を育てます。 (体)生命を尊ぶ気持ちをもち、自らの健やかな体をつくる子を育てます。 (公)学校や地域に親しみ、まちの一員として積極的にかかわる子を育てます。 (開)様々な人とのコミュニケーションを通じて、広い視野をもち、世界とつながろうとする子を育てます。				
	学校概要 創立 32 周年 児童生徒数: 人	学校長 副島江理子 副校長 丹野一郎	2 学期制 一般学級: 14 個別支援学級: 4	主な関係校: 緑園西小学校 岡津小学校 岡津中学校 名瀬中学校 上矢部小学校	

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
主体的に自分の思いを表現していく力 自分づくりに関する力 (岡津中ブロック) 「健全な自尊感情の向上」 ・自己教育力 ・人間関係力	岡津中ブロック 岡津中学校 岡津小学校 緑園西小学校 上矢部小学校	主体的に自分の思いを表現していく子ども 主体的な表現力を育成するための合同授業研究会の推進 及び 体験活動を通じた児童生徒交流の推進 各教科の学習の充実 人権教育 小中一貫教育

中期取組目標	(1) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくります。 (2) 子どもの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていく子を育てます。 (3) 教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。 (4) 学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づいた開かれた学校をつくります。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当 学力向上部会	①個々の思いを大切に、ゴールを明確にした学習課題の設定、学習プロセスを意識した学習を通して情報活用能力、言語能力、表現力を高める②ICTの有効な活用や言語活動の工夫、協働的な学習を通して新たな価値の創造をめざす。④各教科の横断的な学習を創造し、単元構成の工夫を図る。(主たる単元を明確にして年間計画を立てる。)⑤どの学力層にも応じた指導の手立てとしてワークシートやヒントファイル等の手立てを講じていく。(個別最適化の学び)
豊かな心 担当 児童指導部会	①「なかよし活動」の在り方を工夫して異学年交流を図る。②委員会活動等、子ども主体の生活づくりを進める。③年間を通して「心も体もびょうきプロジェクト」を推進し、自他を尊重する態度を育成する。④地域や社会と関わる機会を捉え体験を通して多様な人々への共感を育む。(状況に応じた活動の在り方の工夫)⑤子どもたちの課題に即した道徳授業に取り組む。
健やかな体 担当 児童支援部会・体育部	①感染症予防対策を念頭に子どもの問題意識を生かして児童会や各委員会主催の「健やかな体づくり」に取り組む。②8月からの給食停止を受けて「食育」の充実を図り、食による健康な体づくりへの意識を高める。③新校舎での生活において、けがのないように努め外遊びの工夫に取り組む。④家庭や地域と連携し、学校の取組を自分の生活態度・生活習慣の形成に生かせるようにする。
社会に開かれた教育課程 担当 教務部	①教科等学習との関連を図り、地域との連携による単元開発を進める。②「ガッツ緑園」(地域でもがんばる)というスローガンを意識化し、子どもたちが自覚をもって地域と積極的にかかわるよう「地域参画力」を高める。③専門機関や企業等と連携し、社会とのつながりや本物との出会いを大切に、職業に対する興味をもち将来に向けての視野を広げるようにする。④SDGsに対する理解と実践を広げる。
カリキュラム・マネジメント 担当 学力向上部会	①緑園義務教育学校の理念のもと、カリキュラムマネジメント(教科横断的、学校図書館、ICT、未来デザインの有機的な融合)に取り組む。②学状調査等のエビデンスをもとに具体的手立てを講じる。③児童によるPDCAサイクル(KWL)を強化する。④学年やブロック、メンターチーム等で主体的、協働的に授業改善(PDCA)に取り組む。
特別支援教育 担当 児童支援部会	①一人ひとりが自信をもって活動できるように「個に応じた支援」体制を強化し、どの子にとってもわかりやすい学習、互いに尊重し合える学校づくりをさらにめざしていく。②子どもたちの居場所を確保するためにチームで個への支援に当たり、特別支援教室の充実した運用をめざす。③きめ細かく個の状況を捉え、保護者の理解を促し、専門機関やカウンセラーとの綿密な連携を図る。④個別支援学級に対する理解を促し、活躍の場を増やす。
地域連携と学校運営協議会 担当 教務部	①学校運営協議会を軸として義務教育学校開設に向けての学校づくりを行う。②キッズクラブとのさらなる連携を図り、地域や緑園西小の子どもたちとのかかわりを増やす。③幼保小連携を強化し学びの連続性を図る。④緑園活性化委員会や福祉センター等、地域の組織や施設と連携して子どもたちの地域参画体制を整えていく。
研修・研究 担当 学力向上部会	①毎時間が授業改善という共通理解のもと、基礎・基本の向上を図り、日常的に授業を見合い、アドバイスし合うようにする。②「卒業研究」「姉妹校交流」「代表委員会」等、高学年の取組を参観し、教職員全体で「めざす姿」を共有する。③メンターチームの充実を図り、外部研修や授業を伴う研修等、内容を工夫しながらチームとして楽しく研鑽を積んでいく体制づくりを行う。④西小との合同研修の場を設定する。
いじめへの対応 担当 児童支援部会	①「いじめ防止基本方針」に則り、意識を高めて未然防止に取り組む。②「いじめ防止委員会」を月1回以上開催して、全校児童の実態をきめ細かくつかみ、情報共有する場を設け、未然防止や個々の状況に応じるように務める。③アンケート、ypシート等を効果的に活用し実態把握に努める。④「びょうきプロジェクト」のもと、学校保健委員会を中心に「相手の気持ちを尊重する」取組を継続する。⑤日常的に一人ひとりのよさを認め、自尊感情を高めるようにする。⑥情報を共有し、保護者・児童がだれにでも相談できる体制づくりをする。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 教務部	①「高学年学年協力指導体制」のみならず、低・中学年もブロックとしての協働を強化し、創造的・効率的な学年運営を図る。②校内での学び合いを大切にして、積極的に授業改善に取り組む。③校内OJTを進める。(個々が自分の役割において質の向上と効率化を目指した工夫を図る。)④チームで対応という自覚をもって学年内・ブロック・級外と連携を図る。

3 令和3年度 学校教育目標全体計画

1. 学校教育目標の設定

(1) 子どもの実態

素直で明るい子どもが多い。話を注意深く聞き、すぐに実践しようとする姿も見られる。小さい頃より、習い事や塾に行き、多忙感を感じている児童も多い。そのためか意欲や主体性に欠け、言われたことをやる傾向が見られる。地域の行事を楽しみに参加したり、読書を好んだりするよさがある。

(2) 保護者の実態

教育熱心で、学校に対しても協力的な家庭が殆どである。年々、両親ともに多忙な保護者が増えて来ており、祖父母の家から通ったり、夜遅くまで保護者が帰宅しなかったりなどの家庭も増えてきている。受験志向が強く、半数以上が受験するため、高学年になると学校生活よりも塾優先に考える保護者が多い。

(3) 地域の実態

本校は、令和4年度に緑園義務教育医学校の開校を控えている。地域に長年切望され、やっと開設される学校であり、これまでも準備委員会や学校運営協議会等を通して、地域の方々も切実感をもって学校開設に動いてきた。また、名瀬地区、緑園地区ともに学校とのかかわりが大変強く、地域行事に積極的に子どもを参画させてくださっており、居場所作りや学習発表会、地域参集訓練等のこの地域ならではの取組もある。見守り活動も熱心である。

(4) 学校教育目標の設定にあたって

自分の思いをしっかりと持ち、よりよい自分をめざして、自分も周囲の人々も共に大切にすることのできる「自信」と「思いやり」の両方を持ち、主体的にものごとに取り組んでいくことで、自己肯定感（自尊心）の高い子どもになってもらいたいという願いを込めて設定した。

(5) 学校教育目標の内容

I 経営方針の柱 「自己教育力の育成」

◆本校の状況

児童数416名 18学級（1、2年生3クラス3年生～6年生 2クラス、個別支援学級 4クラス）

小さい学年の友だちに優しい反面、同学年の中では、自信がもてなかったり、優しい言葉がお互いにかげられなかったりすることが多い。優劣や他人の評価を気にして、自分が出せない子どもが多い。「勉強がきらい」等、何事にも消極的、否定的な子どもが一定数いる。

○児童数も年々減少していたので、(6年間で100名以上減)「一人ひとりが大きかやこう」を合言葉に「6年生が中心となって、自分たちでよりよい学校をつくる」ことを大切に取り組んできた。

「主体的・協働的な学習」や「けが（びょうき）Oプロジェクト」等

- 外遊びも読書も好き。○資料活用能力、表現力や各教科に対する意欲の向上。
- 給食もよく食べて学校全体で給食の残量が少ない。欠席が少なく心身ともに健康である。
- あいさつができるようになってきている。
- 係活動や委員会活動等のみんなのために活動することに対する意欲が高い。

自他共に認めることができるようになってきた

自己肯定感の向上へつながる

◆学校教育目標

- (知) 自分の思いをもち、自分の力で積極的に学び続ける子を育てます。
- (徳) 規範意識をもち、自分も相手も大切にし、自信と思いやりのあふれる子を育てます。
- (体) 生命を尊ぶ気持ちをもち、自らの健やかな体をつくる子を育てます。
- (公) 学校や地域に親しみ、まちの一員として積極的にかかわる子を育てます。
- (開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、広い視野をもち、世界とつながろうとする子を育てます。

よりよい自分 よりよい仲間

～自律 自責 自治 自信 自立～

自尊感情を高める

II 具体的な取組

○子どもたちがつくった児童年間スローガンを意識して、学校生活を送るようにします。

「えんじん全開フルパワー」

☆どんなときも全力でとりくむ、どんなときもけじめをつけて楽しく

「がっつ緑園」 ☆地域でもがんばろう

「おおきな心をもつ緑園の子」

☆いろいろな心をもつ緑園の子 だれにでもやさしい緑園の子 相手のことを考え行動する緑園の子
<2021年度 具体のスローガン>

○30周年スローガン「感謝の気持ちを未来につなごう」を引き継ぎ、

「緑園義務教育学校設立」と緑園東小学校最後の年に向けて、

「自分たちでよりよい学校をつくろう」という意識をより一層高めるようにします。

◇子どもたちの学校・仲間・地域に対する思いを高めていきます。

○チームとして、子どもたちを育てます

◇学年（高学年チームマネジャー制、教科担任制、有効な学年一斉型・ねらいに沿った学年内グループ等）

◇異学年交流（全校なかよし活動、ブロック交流、教科活動、特別活動における交流）

◇学校協力体制（全職員によるチーム体制、全教職員で子ども一人ひとりに関わる）

【学力向上プラン】

生きてはたらく知 自ら学び、他者と協働しながら新たな価値を創造する子どもの育成

- ① 個々の思いを大切に、ゴールを明確にした学習課題の設定、学習プロセスを意識した学習を通して、学びに向かう力を育成する。
- ② 自分の考えをより明確にするため、学校図書館(メディアセンター)を活用し、複数資料を用いて考えの構築をする。
- ③ 国語・英語を関連させた学習を通して、言葉にはいろいろな表現の仕方があることを学び、言語感覚を身に付ける。
- ④ ICT機器を利活用して、個別最適化の学習を追究する。
- ⑤ 協働的な学習を通して、自分の考えを広げたり深めたりする。
- ⑥ 表現・未来デザイン科の学習を通して、読解力、情報活用能力、表現力、創造力、言語能力等の汎用的能力を養う

学状データ等の活用による現状の把握と具体的手立て、個に応じた手立て

豊かな心「自分も相手も大切に作る心を育て、互いを尊重し合う子どもの育成(「びょうき0プロジェクト」)」

- ① 「なかよし活動」の在り方を工夫して異学年交流を図る。
- ② 委員会活動や緑園子ども会議等、子ども自身の考問題意識を掘り起こし、子ども主体の生活づくりを進める。
- ③ 年間を通して「心も体もびょうき0プロジェクト」を推進し、自他を尊重する態度を育成する。
- ④ 地域や社会と関わる機会を捉え体験を通して多様な人々への共感を育む。(状況に応じた活動の在り方の工夫)
- ⑤ 子どもたちの課題に即した道徳授業に取り組む。

健やかな体「自分で自分の心と体の健康を考える子どもの育成」

- ① 感染症予防対策を念頭に子どもの問題意識を生かして児童会や各委員会主催の「健やかな体づくり」に取り組む。
- ② 8月からの給食停止を受けて「食育」の充実を図り、食による健康な体づくりへの意識を高める。
- ③ 新校舎での生活において、けがのないように努め外遊びの工夫に取り組む。
- ④ 家庭や地域と連携し、学校の取組を自分の生活態度・生活習慣の形成に生かせるようにする。

地域との連携

「地域や社会とのつながりを感じて、自分から積極的にかかわろうとする子どもの育成」

- ① 教科等学習との関連を図り、地域や専門機関や企業等と連携し、社会とのつながりや本物との出会いを大切に、職業や地域の一員としての意識を高め将来に向けての視野を広げるようにする。
- ② 「ガッツ緑園」(地域でもがんばる)というスローガンを意識化し、「地域参画力」を高める。
- ③ SDGs に対する理解と実践を広げる。
- ④ 学校運営協議会を軸として義務教育学校開設に向けての学校づくりを行う。
- ⑤ キッズクラブとのさらなる連携や緑園西小とのかかわりを増やす。
- ⑥ 幼保小連携を強化し学びの連続性を図る。

特別支援教育の充実「特別支援」→「個に応じた支援」→「一人ひとりの 心に寄り添う」

どの子にとってもわかりやすい支援、区別・差別のない学校づくり =いじめの対応

1. 個の状況を捉え、専門機関、カウンセラーとの連携強化
2. わかりやすい指導の工夫(学習、生活) ハッピールームの充実
3. 個別支援級児童との交流を図り、認め合う関係を構築する
4. 保護者との連携強化・相談体制
5. 研修による理解

「二部会制」による教育活動の充実を図る

「主体的な人間関係づくり ・生活づくり」

「びょうき0プロジェクト=自分の気持ちも相手の気持ちも尊重する」を軸として、主体的・協働的な生活づくりに取り組む。

「委員会活動の連携・活性化」

「学校保健委員会=緑園子ども会議」

「人権週間の取組の充実」「なかよし活動」

「食育(特に昼食持参時における)」

「道徳教育の推進」「感染症予防の取組」等

「主体的な学習づくり」

汎用的能力(読解力、言語能力、情報活用能力、創造力)を育成するために、各教科横断的にカリキュラム・マネジメントを行い、授業改善に取り組む。

「学校図書館を活用した学習」「学びのプロセスの定着」「日本語、英語を併用した学習」

「メディアリテラシーの定着」

「メタ認知力の育成と個に応じた課題を追究する学習」「表現・未来デザイン化の創造」等

学校教育目標実現の両輪として取り組み、相互に関連し合っ子ども力を育む